

定時制課程

令和5年度 学校評価アンケート結果

評価基準及び凡例

1 令和5年度保護者アンケート
令和4年度保護者アンケート（参考）

2 令和5年度生徒アンケート

3 令和4年度生徒アンケート（参考）

4 令和5年度職員アンケート
（今年度の重点目標）

5 令和5年度職員アンケート（参考）

保護者・生徒アンケート

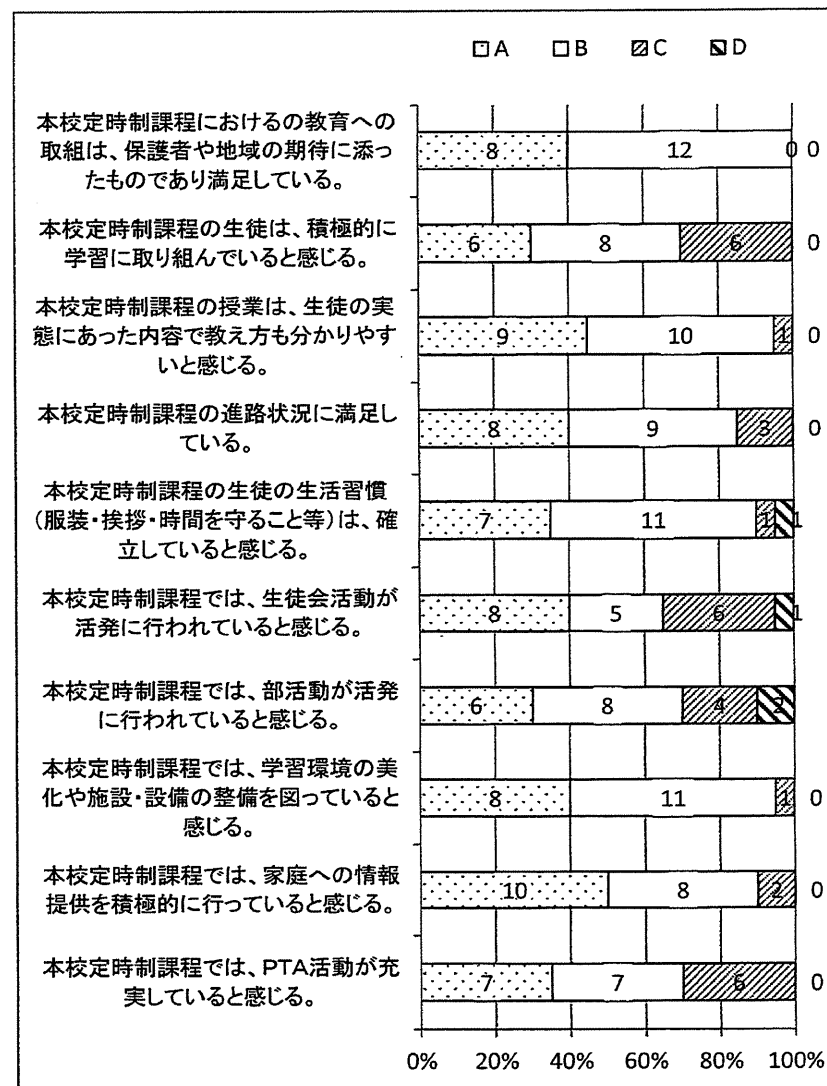
- A よく当てはまる
- B やや当てはまる
- C あまり当てはまらない
- D 全く当てはまらない

職員アンケート

- A 達成
- B ほぼ達成
- C やや不十分
- D 不十分

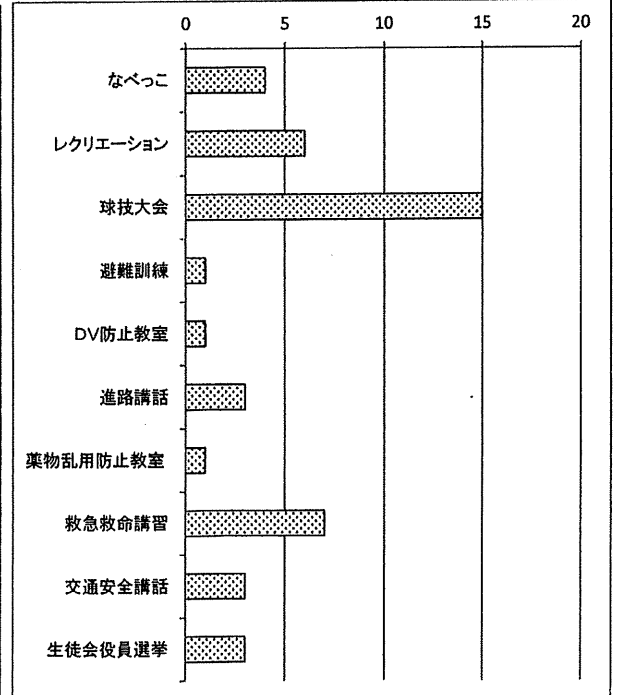
回収率 89.3%

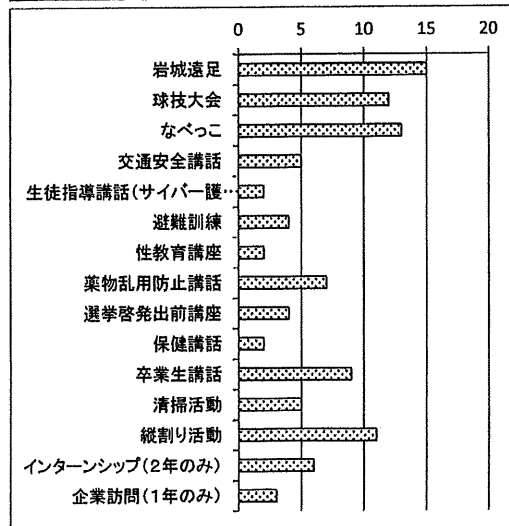
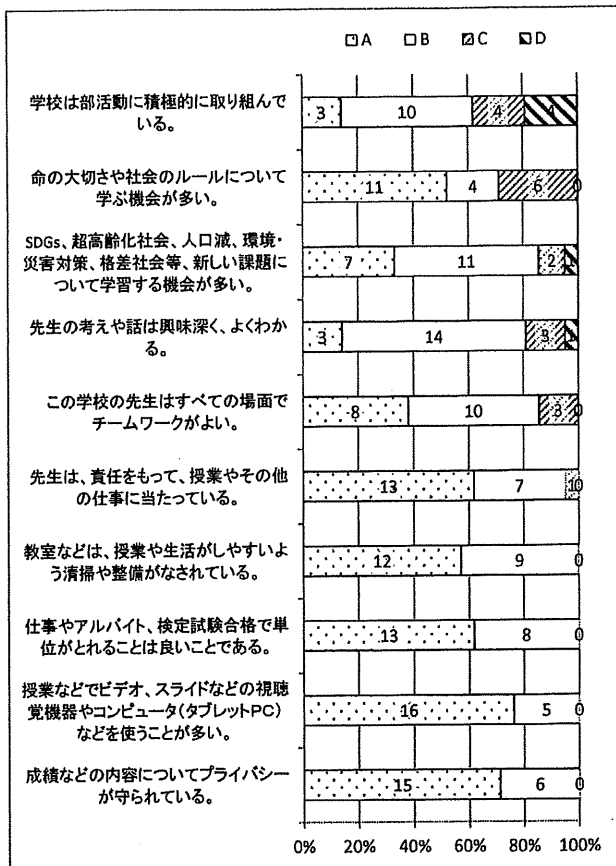
(参考 令和4年度 回収率95.2%)

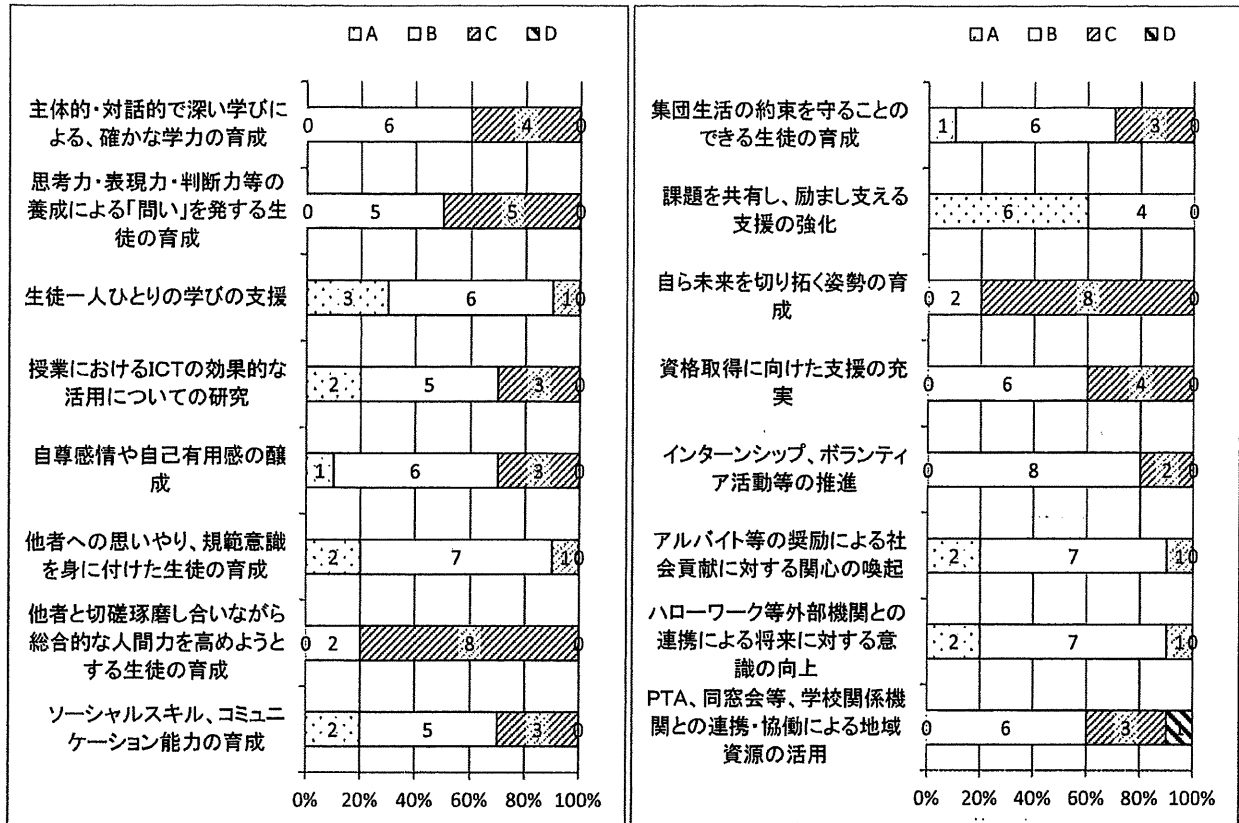


(自由記述)

・いつもありがとうございます。





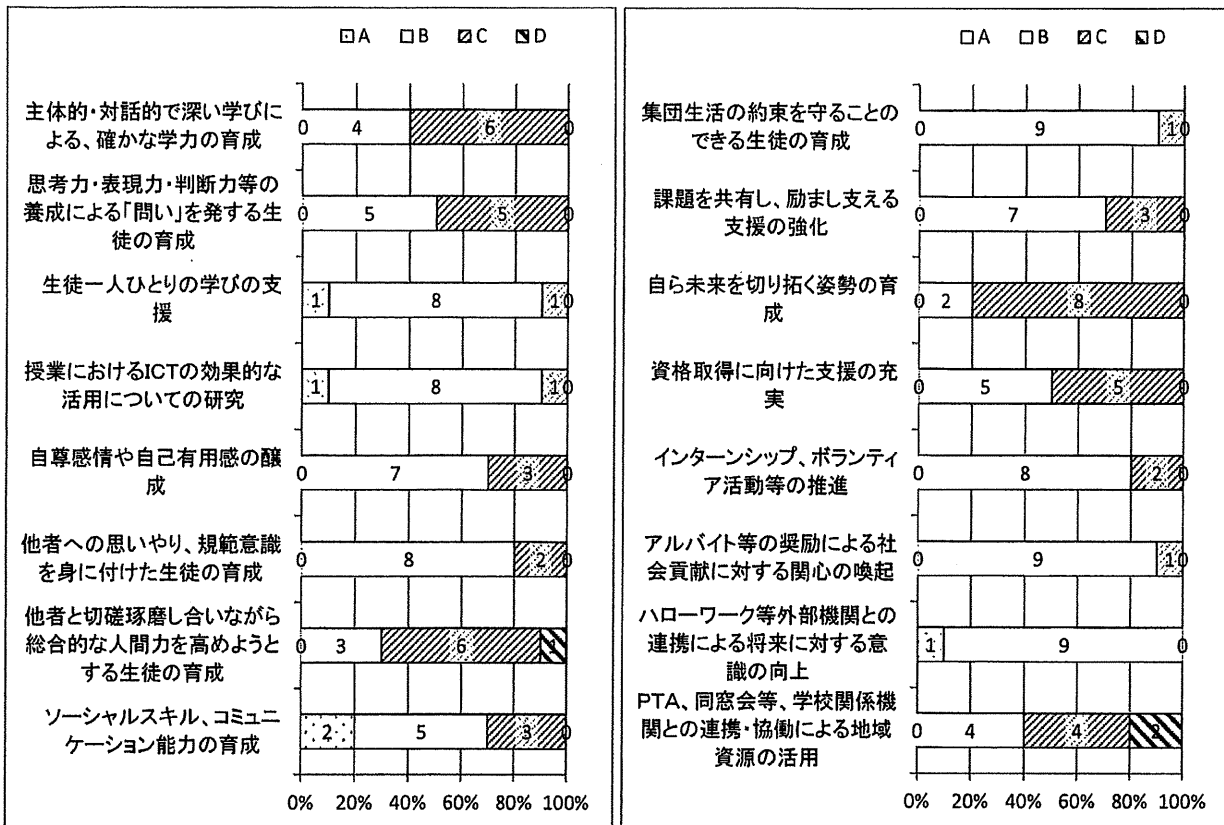


(よかった点)

- ・授業や学校行事、縦割り活動などで、コミュニケーション能力を高める取組を取り入れることで、生徒の適切なコミュニケーション能力の向上を図ったのがよかった。
- ・さまざまなソーシャルスキルの育成のための取り組みはすばらしいです。欠席してしまう生徒が必ず複数名いることが残念です。そのような生徒にも自己肯定感を高め、他者と関わることの苦手意識を取り除くように継続した取り組みをしていきたいです。
- ・同じように普通の学校生活の中でわかる授業を心がけ、諦めずに最後まで課題に取り組める生徒の育成を心がけていきたいです。
- ・社会性やコミュニケーション能力の育成ということに関して、縦割り活動などの集団的な活動が工夫して行われ、充実していたように感じる。
- ・良かった点は、生徒個人についての情報交換が密に行われている。生徒の指導を学年任せにせず、全員で指導しようとする雰囲気できてきていることです。外部機関との連携もうまくいっていると思う。
- ・職員間で生徒の情報共有が出来ていた。
- ・縦割りなどの全校の活動で、異学年との関わりをもつことができた点。
- ・特別支援の教育専門監に授業を参観していただき、授業のユニバーサルデザインについて助言をいただいた点。
- ・生徒の人数が増えて、縦割り活動の活気がさらに出てきたように思います。
- ・生徒一人ひとりに寄り添いながら、丁寧に指導が行き届く体制ができてきた。
- ・学校として、生徒個々の事情に寄り添う指導・援助等に注力していた。

(改善点)

- ・知識や技能を活用する能力を高めるための手立てを検討する必要があると感じた。
- ・日常的な授業研究や授業改善が不十分であると思う。各教科の担当が1~2名なので難しい面もあるが、授業参観週間や授業アンケートをもっと活用すべきだ。
- ・全校を通して一部の生徒の各分野の能力が劣ることが目立ちがちである。能力の高い生徒がサポートしてあげるという面では良いかと思うが、能力が低くても自律できるような教育をより充実させていく必要があると感じる。
- ・切磋琢磨したり、未来を切り開こうとする気持ちにはかなり遠いように思う。まず、そのようになりたいと思えるような、自分に対する自信をもたせたり、失敗してもやり直せるような安心感をもたせたい。
- ・スクールウェアが未完成で、現場での業務に不安を感じることもある。二重手間になったり、確認作業がしづらくなってしまうのでは無いかと危惧している。
- ・ボランティアなどで地域の人とつながったり、誰かの役に立ったり、感謝されたりする経験がもっとできるとよいと思います。自己肯定感やコミュニケーション能力の向上、勤労意欲を育むことにもつながるのではないかと思います。
- ・食生活に課題がある生徒が少なくないため、食をテーマにした活動をもう少し頻繁にできるとよいと思います。
- ・精密検査の受診率がとても低いため、自分一人で受診するためのスキルを積むような実践的な学習ができればよいと思います。
- ・地域資源の活用について、生徒の視点に変化が見られた。アルバイト希望者が少なく、個人単位で外部との接触が少ない。



(良かった点)

- 卒業生講話を実施でき、一定の評価が得られたことは大変良かった。講話によって多少評価の高値も予想できるが、より身近で現実的な話を聞くことのできる機会は大変貴重と思う。今後も継続したい。
- 縦割り活動を取り入れ、学年を超えたグループでの活動が良かったと思います。
- 今年度初めて実施した縦割り活動は、他者との関わりを嫌う生徒が何名かいたものの、普段とは異なる楽しそうな姿を見せる生徒も多かった。ソーシャルスキルやコミュニケーション能力の育成のためには、継続していくべき活動だと考える。
- 卒業生講話を今年度初めて実施した。地元で働く卒業生から話を聞くことができ、生徒が定時制卒業後の自身の姿をイメージするためのヒントとなった。普通の外部関係による講話よりも生徒の心に響いたのではないかと。
- 岩城鑑定ができたこと。全校での校外学習は大変良かった。
- 縦割り活動を始めたこと。課題も出たかと思うが、他学年との交流や各先生の計画案など、得ることが多かったと思う。
- 縦割り活動は、他者と協働する大切さを学ぶことができ、他学年の生徒同士でコミュニケーションをとる機会となっていたため、良い取り組みであったと考える。
- 授業での発表が苦手な生徒に対して、保護者や本人からの要望を全職員で共有し、配慮しながら取り組めたことが良かったと思う。
- 卒業生講話でも、実際に定時制を卒業した生徒からお話を聞くことができ、生徒自身が卒業後どうありたいかを考えるきっかけになったと思うので、継続的に実施していきたい活動である。
- コロナ感染症への対応で、管理職と担任の先生方、全日制での対応を参考にしながら進めていくことが良かった。
- 生徒に新型コロナウイルスの罹患者がいたが、校内感染が広がらなかった点は評価できる部分だと思う。
- 休校入学者(臨時対応)になった点も、定時制を退る生徒の実情を考えたときどこでも効果的なものだと感じている。このやり方は継続していくべきだと思う。
- 学校行事や縦割り活動が充実していた。
- 各教科で教科研究をしっかりと、興味関心を引きつける授業を展開できていると思う。
- 様々な行事を縦割り活動で学年を超えた交流をすることができたこと。
- コロナ禍の緊急で実施が心配された岩城鑑定やなべっこを実施できたこと。
- 縦割り活動、卒業生講話は、有効な手立てであったと感じる。ただし、縦割り活動については、ネタ切れにならないように配慮である。

(改善点)

- 学力の高い生徒や基礎基本を徹底する必要がある生徒、学びに時間を要する生徒など、それぞれの状況や要請にあわせた学習ができるよう工夫したい。
- 資格検定などに挑戦する生徒が減少傾向にある。資格取得の有用性や理解することの意義を理解させ、挑戦する意欲を高めたい。
- いつも似たような「手をかけすぎているのか」、合理的とは言えない「単なる配慮をしているのか」ということです。「主幹」 「切磋琢磨」とは馴染みの感じがしています。
- 「全職員で全生徒を見る」という意識が、昨年度よりも弱く感じている。担任や授業担当、部活動担当以外の人も、もっと積極的に関わってほしい。様々な事情をかかえた生徒たちであるため、他者とコミュニケーションをとることが苦手な生徒も多いが、教員とのやりとりは大事な練習の場であると思う。
- 夜間であることや音読科目であることは良さでもあるが、できないことが多く、特色も出づらしい。可能な限り、外に出る活動を設定できればと思う。
- 新型コロナウイルスについての対策は、形骸的なものになってしまったと感じている。放課後の備品消毒が済んでいるもの、校務センターを含めて換気らしい換気は通年でほとんど行ってなかったと記憶している。至る所で換気の実績が伝えられてきたが、備品消毒の重要度はあまり語りださなくなったように感じている。換気をせず、放課後の消毒は継続しているあたりには、「対策している感」を大事にしているように感じた。
- 学校HPの更新がなかった点も、情報公開の観点から見て課題になるように思う。
- オンライン学習などの準備ができていないと思うが、やるべきタイミングはあったものの実行できていない。
- 資格取得については、漢字検定を例にとると校内受験のためには10名以上の受験者が必要のため本校の生徒数では厳しい。そのような受験者数制限のない資格検定はほとんど取り組まないと。
- ボランティア活動についても、アルバイトをしていない生徒にも積極的に参加させたい。そのためどのようなボランティアの募集があるか周知してほしい。
- 今年度もPTA、教育振興会との連携した行事運営ができていない。コロナ以前のPTA活動や教育振興会の活動もよくわからない。職員が多いと思う。
- 縦割り活動なのでやれど得ないところではあるが、日照時間や長期休み等を考慮した上で、ボランティア活動や地域貢献活動等をできることから取り入れ、自己有用感の醸成につなげたいものである。